

Management Club Report

Dec.2005/Vol.36

Monthly Opinion 目指せ！ホンモノの歯科医院

地に墮ちたプロの誇り

これほど情けない事件に遭遇したことはありません。この何週間か連日マスコミを賑わせ世間の耳目を引き付けている「耐震強度偽装事件」です。建築関係に携わる多くの人たちは大変悔しい思いをしているはず。「技術立国ニッポン」の名がすたる全く国辱的な不祥事ではないでしょうか。

今日の日本の繁栄は優秀な技術力に裏付けされた製造業が作ったと言っても過言ではありません。大企業から町の工場に至るまで、そこには職人技の精緻な技術と妥協を許さない厳格な品質管理工程がありました。精密機器や電子部品、電気製品や自動車など Made in Japan は信頼の象徴としていつの日か世界中を席卷するまでになりましたが、それらは戦前から引き継がれた品質改良を誇りとする「匠の精神」の伝統を受け継いだものでした。

エンジンの優秀性で有名な富士重工は、第二次大戦時の名機として名高い陸軍の戦闘機「隼」を製作し、海軍の世界的傑作「零戦」のエンジンを開発した中島飛行機が前身です。日本国有鉄道が開発、JR各社が引き継いだ40数年に亘って高度な安全性を保持し続ける「新幹線」も、かつての満鉄の象徴とも言うべき「特急アジア号」を製造した川崎車輛（現川崎重工）が、当時の技術と夢を活かして製作したものでした。このように優秀な製造業が技術屋の名誉にかけて世界的に高品質な製品を作ってきたことは、国民が等しく誇りに思うところでした。

建設業は産業分類上は製造業ではありませんが、建設現場は製造業の工場と同じ職人技の集積場です。そこには大工、鉄筋工、鳶、塗装、左官、建具、家具といった多くの職人と、現場を統括する元請企業の技術者、建物を設計し工事を監理する設計士などの建築技術のプロが集まり、建物を造り上げていく正に製造業でもあったわけです。

そこでは専門領域における見解の違いからお互いの意見が真っ向から対立するような光景も見られますが、それはより良いものを、またより確かなものを造ろうという気概があるからこそその衝突でもあり、お互いがプロのプライドを持って仕事をしていたと言えるでしょう。

それなのに今回の事件は、残念と言うより口惜しい、「裏切り者」と叫びたい気持ちです。現場は明らかにおかしいと思ったはず。なぜそこで問題提起がされなかったのでしょうか。建築確認が民間の委託会社で行われ、偽装に気が付かなかったことに責任がある、あるいはそのようなシステムにした国家の